

市民のみなさんが「住んでよかった」と 実感できる竹原市を目指します。

平成21年12月20日に投票が行われた竹原市長選挙では、小坂政司さんが3回目の当選を果たしました。1月14日から新たなスタートを切る「小坂市政」。竹原市のかじ取り役として、小坂市長に抱負などをうかがいました。



新年のあいさつ

新年あけましておめでとうございます。市民のみなさんにおかれましては、ご健勝にて新春を迎えられたことと、心からお慶び申し上げます。

みなさんからのご支援をいただき、今年、3期目の市政を迎えることとなります。これまで以上に元気で住みよい竹原市の実現に向けて、あらゆる努力をはらい、行政運営に取り組みまいりますので、より一層の支援とご協力をお願いいたします。

この8年間を振り返って

これまでの8年間で、本市を取り巻く社会経済情勢は、少子高齢・人口減少社会への移行、市町村合併の進展や分権改革の推進、経済のグローバル化など、かつてないほど大きく変化しています。

こうした大きな時代の変化の中で、本市をはじめ、住民に身近な基礎自治



体は、ますます多様化する市民ニーズや地域の課題などに的確に対応し、市民のみなさんが期待するサービスを提供するとともに、多様な主体との協働の下で、創意工夫を凝らした施策の展開や、独自の地域づくりが求められています。

このため、これまでの2期8年間の中で、まずは、市民のみなさんと共にまちを築く「協働のまちづくり」を積極的に推進してきました。

また、市役所は最大のサービス産業であるとの認識のもと、「最少の経費で最大の効果を挙げる」という視点に立って、職員の定員・給与の適正化や事務事業の見直しなどを行い、行財政改革に力を注ぎ、確保した財源を活用して元気な竹原市に向けた様々な施策・事業を推進してきました。

今後もし引き続き、暮らしの中から生まれる市民のみなさんの「思い」に応えられるような市役所づくりを目指したいと考えています。

「元気で住みよい竹原市」を目指す

今年度、これからのまちの進むべき道を方向づける第5次総合計画をスタートさせました。目指す将来像は、「住みよき実感 瀬戸内交流文化都市 たけはら」。市民のみなさんが「住んでよかった」「元気で住みよい」と実感できる竹原市をつくることが目標です。



まちづくりの大切なキーワードは「協働」です。市民のみなさんの多様なニーズに応えるために、市民目線の行政運営や組織力の向上に取り組み、市民のみなさんと行政がより一層強いパートナーシップを築くことが大切だと考えています。

現在、市内11地区で住民自治組織が設立され、地域行動プランに沿って自主防災訓練などに取り組んでいます。今後も引き続き、市民のみなさんと行政が対話・連携しながら、政策形成や問題解決、魅力づくりなどができよう取り組みたいと考えています。

そして、人と人、地域と地域のかかわりの中で、互いの力を引き出し合い、個々の力を重ね合わせることで、まちづくりの推進力をみんなで築き、元気な竹原市をつくっていきます。

目標とするまちづくり像への具体的な取組み

これからの4年間、「住みよき実感」に向けて、「人づくり」と「個性づくり」の2つの観点から、「元気で住みよい竹原市」づくりに全力を挙げて取り組んでいきます。

■人づくり

竹原市を元気なまちにするのは、竹原市に住む「人」です。次代を担う人づくりという視点に立ち、確かな学力の育成に努めるとともに、学校施設の耐震化や小中学校の完全給食化に取り組みます。

また、子育てを応援する地域を目指して、乳幼児医療の無料化拡大や公共施設への赤ちゃんの駅設置を検討し、生涯学習関連施設の整備・充実を図ることで、夢と生きがいのあるまちづくりに取り組むたいと考えています。

■個性づくり

太陽光発電システム等の省エネ技術の活用推進を検討し、「環境にやさしいまち」を目指します。また、安心・安全なまちづくりに向けて、地域で支え合う福祉社会づくりを進めるとともに、快適な住まいの提供や高潮対策、主要な都市間・高速交通体系へのアクセス強化(道路網の整備促進)、生活交通(路線充実)の検討、光ファイバー網の整備推進を行っていきます。

さらに、人が集まる元気なまちをつくるため、「竹原ならではの」という

視点をもち、「道の駅」を起爆剤として、竹原産品のブランド開発など新たな観光資源づくりや農林水産業・商工業の活性化、積極的な企業誘致活動の展開などに取り組むたいと考えています。

市民のみなさんへ

私はこれまで、「元気で住みよい竹原市づくり」を言い続けてきました。

これは、言い続けることに意味があると思っっています。これからも先頭に立って、市民のみなさんとともに、「元気で住みよい」「住んでよかった」と実感できる竹原市をつくるために、力を注いでいきます。そして、説明責任を果たすため、これまで以上に地域に向いていきたいと考えています。

みなさん自身が豊かさ住みよさを実感できる竹原市を実現するために、学び合い、育ち合いながら、共に地域を元気にしていきましょう。

